

モラロジー 第1回 四国八十八ヶ所巡拝 令和2年1月28～30日

会費 48,000円

令和2年1月28日朝6時30分 羽島バス駐車場 7時10分着
 7時45分羽島バスにて四国へ 草津 9時、9時15分発。あわじオアシス 10時50分、11時05分発。11時40分大塚美術館近くのホテルでバイクング昼食、美味しかった 12時30分まで。大塚美術館12時40分から14時30分まで見学。
 広すぎて大変。西洋の宗教画が中心。いよいよ1番から巡礼スタート。この日は、1番霊山寺から4番大日寺まで。翌日7時40分ホテル発5番地蔵寺から12番焼山寺まで。3日目13番大日寺から18番恩山寺まで。お詣りのバスも殆どなく順調な巡礼であった。参加者23名。恩山寺12時30分発、カキ食べ放題の昼食。14時30分発。あわじオアシス15時30分大津、養老と休んで19時10分羽島着であった。今年が閏年で、「逆打ち」の年のとのことで、こちらは秋が忙しいとのことであった。



<p>第1番 霊山寺 釈迦如来</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>鳴門市</p>
	<p>天平年間に聖武天皇の勅願により行基菩薩が開基。その後、弘法大師が大日如来のマンダラ道場を求め、四国の東北から右回りに八十八の煩惱の数にちなみ霊場を開くために来錫。持仏の釈迦誕生仏を本尊前に収め、八十八カ所霊場第一番と定める。</p>	
<p>第2番 極楽寺 阿弥陀如来</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>鳴門市</p>
	<p>弘法大師がこの地で修行の折、阿弥陀経を21日間読誦し、秘宝を修された。結願の日に現れた阿弥陀如来の姿を謹刻され、本尊として八十八カ所の第二番札所に定めた。大師のお手植えとされる長命杉は、直接触れず紅白の紐を通じて霊気を授かる。サルが歓迎。</p>	
<p>第3番 金泉寺 釈迦如来</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>板野町</p>
	<p>聖武天皇の勅願により行基菩薩が開基し、金光明寺と命名。弘法大師が水不足で苦しむ村人を見て井戸を掘り、霊水が湧き出したので寺号を金泉寺と改め四国第三番の霊場と定めた。黄金の井戸の黄金井地蔵は首から上の病に霊験があると伝わる。</p>	

<p>第4番 大日寺 大日如来</p>	<p>東寺真言宗</p>	<p>坂野町</p>
	<p>弘法大師が四国巡錫中に開基したと伝えられ、大師の刻んだ本尊の大日如来像にちなみ大日寺と号し、第四番札所に定めた。幽玄な山裾に立ち、朱塗りの鐘楼門がある。本堂と大師堂をつなぐ回廊に、江戸時代に寄進された木造観音像33体を安置。</p>	
<p>第5番 地藏寺 延命地藏</p>	<p>真言宗御室派</p>	<p>坂野町</p>
	<p>嵯峨天皇の勅願により弘法大師が開創。大師自らが刻んだ本尊の勝軍地藏菩薩は、右手に錫杖、左手には如意宝珠を持ち甲南姿で軍馬にまたがるという勇ましい仏様。奥の院の羅漢堂には、極彩色に彩られ、喜怒哀楽の表情をうかべた等身大羅漢像が並ぶ。</p>	
<p>第6番 安楽寺 薬師如来</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>上坂町</p>
	<p>弘法大師が四国巡錫中にこの地を訪れ、引野が薬師如東と深い因縁で結ばれていると直感され、一刀三礼の薬師如来像を刻み、堂宇を建立して尊像を安置。鐘楼門を入ると、回遊庭園の中央に厄除けの「さか松」があり、鮮やかな多宝塔も見える</p>	
<p>第7番 十楽寺 阿弥陀如来</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>阿波市</p>
	<p>弘法大師が当地で修法中に阿弥陀如来が現れ、霊地であると感得し尊像を刻んで堂宇を建立。鐘楼門を入ると正面に水子地藏尊が並ぶ。本堂の近くにある治眼疾目救歳地藏尊は、古くから眼病や盲目に靈験があると伝わり、眼病に悩む人の参詣が多い。</p>	

<p>第8番 熊谷寺 千手観音菩薩</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>阿波市</p>
	<p>弘法大師が閑伽ヶ谷にて修行中、紀州熊野権現が出現し 「末世衆生を永く濟度のため、千手観世音菩薩を当山に安置せよ」 と告げ、金の観音像を大師に授けた。大師は一字を建立し、自ら等身の千手観音像を刻み、その胸の中に金像を納め本尊とした</p>	
<p>第9番 法輪寺 涅槃釈迦像</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>阿波市</p>
	<p>弘法大師がこの地方を巡錫中に仏の使いである白蛇を見つけた。大師は釈迦の涅槃像を刻み、本尊として一寺を建立し白蛇山法林寺と号した。 正保年間に現在地に移転し、寺名を正覚山法輪寺と改名。本堂には健脚祈願のわらじが多数奉納されている</p>	
<p>第10番 切幡寺 千手観音</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>阿波市</p>
	<p>この地で修法していた弘法大師は、結願の七日月に僧衣を繕うために布を所望。乙女は織りかけていた布を切って差し出した。感動した大師は願いを聞き、千手観音の尊像を刻み得度させ灌頂を授けると、乙女から七色の光明が放たれ即身成仏した。</p>	
<p>第11番 藤井寺 薬師如来</p>	<p>臨濟宗</p>	<p>吉野川市</p>
	<p>弘仁六年、弘法大師42歳の時、この地で厄難を祓い衆生の安寧を願ひ薬師如来像を刻み堂宇を建立。金剛不壊の護摩壇を八畳岩に築き、七日間の修法を行なう。境内に五色の藤を手植えたとの由来から金剛山藤井寺と称されるようになった。この松は門前の民家の松である。あまいにも見事。</p>	

<p>第12番 焼山寺 虚空蔵菩薩</p>	<p>高野山真言宗 神山町</p>	
	<p>役行者小角が山岳修験のため庵を結び、蔵王権現を祀ったのが始まり。弘法大師が村人を苦しめる大蛇を洞窟に封じ込め、虚空蔵菩薩像を刻み本尊として開山。境内は樹齢数百年の巨木が並び、1・6キロ下ると遍路の元祖衛門三郎の終焉地「杖杉庵」がある。</p>	
<p>第13番 大日寺 十一面観世音菩薩</p>	<p>真言宗大覚寺派</p>	<p>徳島市</p>
	<p>弘法大師がこの地に巡錫され「大師ヶ森」に堂を結び、護摩修法をされているとき、紫雲が舞い降りて大日如来が姿を現わしたという。そこで大師は、大日如来像を刻み本尊とし、堂宇を建立し霊場に定めた。境内では、しあわせ観音像が微笑む。</p>	
<p>第14番 常楽寺 弥勒菩薩</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>徳島市</p>
	<p>弘法大師がこの地で真言秘法を17日間修すると、弥勒菩薩が多くの菩薩を従えて現れ、大師に説法を行った。感得した大師は、尊像を霊木に刻んで中堂に安置し、第十四番の本尊に定めたと伝わる。境内は荒々しく、隆起した剥き出しの大岩盤が広がる。</p>	
<p>第15番 国分寺 薬師如来</p>	<p>曹洞宗</p>	<p>徳島市</p>
	<p>聖武天皇の勅命で諸国に造営された官立寺院「金光明四天王護国之寺」のひとつ。行基菩薩が本尊の薬師如来像を彫造し開基。風格ある山門を入ると、正面に重層入母屋造の本堂が建つ。その本堂を囲むように安土桃山時代を代表する石組庭園がある。本堂解体工事中。</p>	

<p>第16番 観音寺 千手観音菩薩</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>徳島市</p>
	<p>聖武天皇の勅願道場として天平十三年に行基菩薩が建立。その後、弘法大師が四国巡錫のおり、当寺に滞留し、等身大の千手観世音菩薩像を刻み本尊とした。納経所では、大師のご筆跡を基に刻印した光明真言印判を希望者の白衣に押印してくれる。</p>	
<p>第17番 井戸寺 薬師如来</p>	<p>真言宗善通寺派</p>	<p>徳島市</p>
	<p>天武天皇の勅願道場として、白鳳二年の開基。本堂の内陣中央に聖徳太子の作といわれる主尊の薬師瑠璃光如来座像が安置され、左右に三体の薬師像、計七体の薬師如来が並ぶ。境内中央にある日限大師は、寺号の由来でもある大師一夜建立の井戸だ</p>	
<p>第18番 恩山寺 薬師如来</p>	<p>高野山真言宗</p>	<p>小松島市</p>
	<p>行基菩薩が厄除けの薬師如来像を刻み本尊として開基。災厄悪疫を救う女人禁制の道場だった。大師が当寺で修行中、讃岐から母の玉依御前が訪ねてきた。大師は一七日の秘法を修して女人解禁の祈念を成就し、母を寺に招き入れて孝養したという</p>	

遍路の元祖衛門三郎の終焉地の像と杖が根付いた杉



日本遺産 四国八十八箇所霊場 徳島・高知版を参考に作成